

変わらない癖

第12期 林 英里香

私には、昔から変わらないある癖がある。それは、なにかと自ら大変な道を選んでしまうことである。周りの友達が遊んでいる中、ピアノに打ち込み、中学受験を選択した幼少期。また、大学受験のために8割の部員が部活をやめていく中、疲れ切った練習後に毎日塾に直行して11時頃まで勉強した高校時代。そろそろ懲りるかと思いきや、なんと、ゼミ選びの際にもその癖が発揮されてしまったのである。

しかし、私はこの厄介な癖が嫌いになれない。それは、現在に至るまでに、この癖が、私にどんなに多くの学びを提供してくれて、私の人生を豊かにしてくれたのかを知っているからである。そして、この癖が発揮されて入会した小野ゼミも、また、私に教えきれないほどの学びをもたらしてくれた。思い返せば、小野ゼミで過ごしたこの2年の間には、とび上がりそうなほど嬉しいことも、消えてなくなりたいほど辛いこともあった。特に、四分野インゼミ論文活動は思い出深い。何夜にもわたって作業をし続け、ゼミで発表するたびに落ち込む日々。そして、挙句の果てには先生をはじめとして院生の方々や先輩、同期という多くの人々に多大な迷惑をかけてしまった。人生において、こんなにも自分の能力不足を痛感させられ、本当にいたたまれない日々を過ごしたことはなかった。しかし、この経験を通して、自分はまだまだ成長することができるし、しなければならぬと考えることができるようになった。

そして、この険しい道に彩を与えてくれた同期と正しい道を指南して下さった先生の存在が、ゼミでの2年間を私の人生においてかけがえのないものにしてくれた。2年間、嬉しいことも辛いことも一緒に経験した同期は、個性豊かで、癖があって、みんなで語りだすと一人ひとりに面白いエピソードが付きにくい。みんなで議論と練習を重ねて勝利したディベート、力をふりしぼって何十回もの発表練習を重ねて成功することができた四分野インゼミ研究報告会、OBさんと先輩、外務3人組で力を合わせて企画したOBOG会等、一つひとつの出来事に詰まった同期との思い出は、私の宝物である。そして、こんな私を入会させて下さった小野先生には、感謝してもしきれない。どうしようもない論文チームに対しても見捨てず、真夜中にも関わらず一緒に奮闘して下さい、私が緊張しながら先生相談に行き、未熟な説明をしてしまうのにも関わらず、優しく見守り、正しい道を指南して下さい、生徒想いで温かい先生に出会うことができ、沢山の成長をさせていただいた。そんな先生の元で学べたことが、私にとって、本当に幸せだった。

最後に、いよいよ4月からは、新しい生活が始まるが、多分また、懲りずに忙しい日々を送ることになるだろうという予感しかしていない。しかし、不安より期待が大きいのは、間違いなく小野ゼミで培った様々な経験が私の血肉となっているからであろう。小野ゼミという選択によって、より好きになってしまったこの癖と、しばらくの間は、また、付き合っていこうと思う。